

平成30年度農産園芸研究課 課題一覧表

研究課題名	内容	研究期間	担当
例:薬用作物の国内生産の拡大に向けた技術の開発・ミシマサイコの導入による複合経営モデルの開発	ミシマサイコの導入による複合経営モデルを開発するため、2年栽培用品種の栽培技術、収量等にかかる情報を収集し、収益性について分析するとともに、発芽率や発芽揃いの向上に係る新技術の経営的評価を行う。	H28～32	企画経営担当
主要農作物優良種子生産管理	水稻、大豆奨励品種の原種・原原種の供給と奨励品種決定のための品種選定試験及び有望品種の栽培法を検討する。	H10～	作物
植物調節剤の適用性試験	水稻の新除草剤・生育調整剤及び麦類等の新除草剤について、農薬登録のため効果と薬害を検定するとともに本県における雑草防除指針の策定に資する。	S39～	作物
「とくしま米」ブランドの創出による水田農業の活性化	新たな食味を持つ本県オリジナル品種を育成する。また、「あきさかり」の良食味生産の栽培技術を確認し、特A取得に向けた技術的支援を行う。	H30～	作物
遺伝資源の保存	藍、雑穀類の遺伝資源を維持保存する。	H25～	作物
産学官連携による革新的施設園芸技術開発事業	県ではアグリサイエンスゾーンを構築し、産官学連携による農業の技術開発や人材育成を図ることとしている。こうした中、種苗業界大手のタキイ種苗の本県への進出、徳島大学生物資源産業学部の進出など、徳島県の農業を取り巻く環境が大きく変化してきている。 そこで本事業では、施設園芸の発展を図るべく、アグリサイエンスゾーンを中心としたタキイ種苗や徳島大学と連携し、高度環境制御による生産性向上や機能性食品表示の実現に向けた共同研究を深化させる。	H30～	スマート農業 担当 野菜・花き担当 生産環境担当
効率的な高色素タデ藍生産技術の開発	タデ藍の高色素栽培方法を確立するとともに、高色素品種の育成を行う。また、収穫後のタデ藍からの効率的な色素原料の製造方法(沈殿藍製造方法)を確立する。	H30	野菜花き
レンコン新品種「阿波白秀」の早期出荷作型向け栽培技術の確立	「ハウス栽培」は、篤農家の温度管理と収量の関係を計測し、指標となる温度管理を明らかにする。「トンネル栽培」は、定植に必要な種レンコンの植付け本数やカリ肥料の追肥方法を検討し、適正な栽培方法を検討する。生産者向けの栽培マニュアルを作成する。	H29～31	野菜花き

平成30年度農産園芸研究課 課題一覧表

研究課題名	内容	研究期間	担当
イチゴ新品種の栽培技術の確立	品種登録出願予定の新品種について、適正な栽培管理を検討し、栽培マニュアルの策定を行う。また、交雑育種に加え、ゲノム情報を活用した効率的な育種方法を検討し、高機能なイチゴ品種を育成する。	H29～31	野菜花き
新「なると金時」ブランド品種の育成	最近の消費者ニーズに対応した食味(粘質系で甘い)で、なると金時と同様に砂地畑へ適応性の高い品種を目標に交配選抜を行ない、最終選抜では立枯病抵抗性を評価し、良食味で粘質系の「なると金時」新品種の育成によるブランド力向上を図る。また将来のニーズ開拓に向けて、砂地畑に適応性の高い有色(紫、カロテン等)サツマイモの育種素材を開発する。	H29～31	野菜花き
サツマイモ特性検定試験・系統適応性試験	九州沖縄農研および作物研育成系統の立枯病抵抗性検定、本県砂地畑での適応性検討を行う。	H21～	野菜花き
遺伝資源の保存	藍、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。また、県の育成品種を保存栽培する。	H25～	野菜花き
簡易施設向けICTシステム利用による地域ブランド野菜産地の強化	トンネル春夏ニンジンにおいて、ICT機器を活用し、トンネル内環境を測定、このデータに基づいたニンジン生育に最適なトンネル換気マニュアルを開発する。また、トンネル内環境情報と植物生体情報を取得し、実用的な出荷時期、出荷量予測技術を開発する(代表機関:京都府)。	H28～31	野菜花き
収穫後品質の向上と機能性を活かした加工品の展開による国産レンコンのブランド力強化	国産レンコンの高い品質を維持するために、生レンコンの表面殺菌及びパッケージングによる長期保蔵技術を実証する。ポリフェノールなどの機能性成分を多量に含む系統をコンソーシアムで維持する多数の遺伝資源から効率的に選抜する技術を実証する。 代表機関:茨城大学	H28～31	野菜花き
ミシマサイコを核とした複合経営モデルの開発	薬用作物の国内生産拡大に向け、中山間地域の耕作放棄地等へミシマサイコを導入する上で課題となる収量増、発芽促進、病害虫雑草防除等の新技術を開発導入し、野菜等との複合経営による収益性向上効果を検証する。	H28～H32	野菜花き

平成30年度農産園芸研究課 課題一覧表

研究課題名	内容	研究期間	担当
AIとドローンを活用した生育診断技術の確立	AIを活用して葉の状態から施肥時期の判断や病害虫の診断を行う技術を開発する。また、ドローンでほ場全体の生育状態をリアルタイムで把握し収穫時期の予測に活用する。	H30	果樹
阿波すず果栽培技術の確立	阿波すず果は、平成27年3月に品種登録出願を行った新品種である。今後、高品質果実の安定生産技術を確立し、阿波すず果の栽培振興に寄与する。	H28～30	果樹
緑色が長持ちする晩生スダチ新品種の育成	8月中旬から9月中旬頃に集中する収穫作業を分散するため現地と勝浦試験地で発見された着色の遅い系統の調査検討を行い、晩生スダチ新品種として育成し、収穫時期の延長を図る。	H28～30	果樹
カンキツの海外輸出技術の確立	輸出に適した果実の調整技術および長距離輸送を可能とする鮮度保持技術を組み合わせて、カンキツ海外輸出技術を実証する。	H28～30	果樹 経営研究
ブランドナシ産地の維持発展に貢献するオリジナル品種の育成	有望な育成系統を中心として、現在の主力品種である幸水、豊水を補完する品種を育成する。	H29～31	果樹
農家が売って作って儲かる新しい甘柿づくりの実現	味・外観とも優れる新品種「太豊」の特徴を最大限発揮するための高品質果実生産技術、早期成園化技術および貯蔵技術を検討する。	H29～31	果樹
新品種の育成による「とくしまブランド」カンキツの強化	接ぎ木等で発生する細胞(区分キメラ)を利用し、スダチ、温州ミカンの新品種を育成する。 また、交雑等により新しい香酸カンキツ、有望な中晩生カンキツを育成する。	H30～32	果樹
本県に適応する果樹品種の比較試験(系統適応性比較)	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39～	果樹